

# 地方開催の歌留多大会報道記事

## 戦 後 編

昭和 23 年 1 月 22 日～昭和 40 年 1 月 21 日

昭和23年1月22日 北海道新聞  
**カルタと卓球大会**

【歌志内】東光俱楽部主催、全空知歌留多大會は18日午後10時から北空知鋼一心館で開く

【砂川】北光青年團では19日午後1時から北光國民學校で歌留多および卓球大會を開く

昭和23年1月25日 北海道新聞  
**全上川空知カルタ大会**

【富良野】全上川、空知歌留多大會は19日午後6時から國防俱楽部で開き36チーム参加、熱戦を展開  
成績次の通り

1等赤平新生A門馬組 2等富良野岡村組 3等富良野E三浦組

昭和23年1月20日 北海道新聞  
**カルタ大会**

【上富良野】町内職場対抗カルタ大会は20日午後6時より山本木工場娯楽室で開く

昭和23年1月27日 北海道新聞  
**カルタ大会入賞チーム**

【和】村職場対抗カルタ大会は20日正午より役場会議室で開催したが入賞チーム左の通り

①役場 A ②役場 B ③和鉄道 ④碧水郵便局 ⑤商榮協同組合

昭和23年1月29日 北海道新聞  
**町内対抗カルタ大会**

【砂川】愛郷同志会と本社砂川支局共催、曉俱楽部後援の第2回全砂川町対抗カルタ大会は22日三井砂川工場青中学校で開いたが参加町内は昨年優勝の石狩火力始め24町内で。入賞順位次の通り

①正和町（本社砂川支局花輪） ②花園町 ③石狩火力 ④東洋高圧 ⑤栄町

### 歌留多大会

音江=歌留多連盟主催第1回オール音江かるた大会は24日村長公邸で15チーム参加の上熱戦を展開  
昇陽松組が優勝した 特賞①昇陽松組 ②同竹組 ③同櫻組 ④一心組 ⑤音江従組

愛別=石北線町村役場対抗かるた大会は24日愛別消防会館で開いた①愛別②当麻③東旭川④上川

昭和23年2月17日 北海道新聞  
**職域カルタ大会**

【秩父別】町内カルタ大会を8日開いたが入賞は左の通り ①役場 ②筑紫町内 ③中央町内

昭和23年2月27日 北海道新聞  
**全道下の句カルタ大会**

【名寄】名寄歌留多愛好俱楽部主催本社支局後援全道下の句歌留多大会は28日午後6時から名寄町東照寺で開催するが出場希望者は同日まで町西4條南5丁目玉江理容店管理部森本方、駅前北海物産まで申し込料1組300円を添えて申し込みのこと

昭和24年1月29日 北海道新聞  
**全町対抗カルタ大会 30日西願寺で**

【砂川】第3回全町内対抗カルタ大会は愛郷同志会主催本社砂川支局後援で30日午前9時から、町南本町西願寺で開かれるが、申込その他の問合せは町立病院内勝浦市宛

昭和24年2月1日 北海道新聞  
**東庄がAB共優勝 カルタ大会**

【砂川】町愛郷同志会主催、本社砂川支局および紅俱楽部後援の第3回町内対抗かるた大會は30日午前9時から町南本町西願寺で開かれ参加町内21チームで決戦の結果次のチームが入賞した

A級①東第七②花園 B ③千歳 A ④東第八 B 級①東第三②鶴③親友④千歳 B

昭和25年1月6日 北海道新聞  
**全道カルタ大会**

【砂川】東洋高圧文化連盟主催、同労組文化部、本社砂川支局後援の全道百人一首カルタ大會が7日午後5時から砂川東洋高圧厚生年金会館別館において行われる、会費は1人200円(組600円)参加希望者は當日まで砂川町東洋高圧文化連盟宛申し込まれたい

昭和26年2月20日 北海道新聞  
**前人気上々の全道カルタ会 70余組申込**

北海道歌留多連盟では24日午後8時から本社ならびに定鉄後援のもと第2回全道カルタ大会を定山渓駅前曙旅館で開く、早くも函館、稚内、旭川、北見、網走などから申込みがあり、既に70余組、当日会場で受けることになっているから百組突破は確実と主催者側ではみている。本年から技能を基準にABCの3クラスにわけ、知事優勝旗、札幌市長杯のほか富永格五郎衆議院から贈られた技能杯、敢闘杯などが贈られ熱戦が期待されている。

昭和26年2月26日 北海道新聞  
**鉢巻き姿も凜々しく 夜を徹してのカルタ大会**

北海道下の句歌留多連盟主催の第3回全道下の句歌留多連盟は本社後援で24日午後9時から定山渓温泉明けぼの旅館にて催された、名誉大會長田中知事も列席して開会式を挙行、つづいて競技をはじめたが道内各地から参加した106組310余名の選手は、鉢巻き姿もりりしく、夜を徹して競技をつづけた

昭和27年1月7日 北海道新聞  
**龍虎クラブ優勝 本社後援のカルタ会**

乙女の姿しばしとどめん、新春らしい龍虎クラブ主催本社小樽支社後援の小樽市カルタ大会が市役所前宝泉寺で5日午後9時から明朝6日朝にかけ16チームが参加して盛大に行われたが熱戦の末龍虎クラブ(高橋良、木村、高橋)が優勝した。△2等村岡A組(木村、中村、近藤)3等村岡B組(堀田、中田、金野)4等龍巻クラブ(山岸、野口、渡辺)

昭和27年1月14日 北海道新聞  
**かるた名人戦 西日本代表三勝**

日本かるた連盟主催の第1次かるた名人戦第1日は13日午後1時から東京芝の東京美術クラブで東日本代表林栄木氏(39)と西日本代表鈴山透氏(44)の間で第1、第2、第3回戦を行った結果3対0で西日本代表の鈴山氏がリードした、次回は来月14日京都で行われ、その結果先に勝ったものが初の名人位を獲得する

昭和27年1月29日 北海道新聞  
**札幌金組優勝 全道かるた大会**

小樽かるた同好会主催の第2回全道かるた大会は26日午後7時から小樽市公会堂で開催札幌は勿論、遠く赤平、奈井江、砂川、岩見沢、京極の各地から集まる30チームによって熱戦を展開したが札幌軍の優勢裡に戦は進み、27日午前10時札幌金が優勝した。①札幌金②札幌星③札幌白勝の松

昭和30年1月30日 北海道新聞  
**人気を呼ぶカルタ遊び**

冬の世は隣近所さそいあっての「カルタ遊び」というわけからか、道新生活運動協議会では、市内幌北地区を中心に時折「カルタ大会」を開いて人気を集めている。29日夜は白楊小学校で開かれたが参加者は地区の老若男女50名ほど。腕に覚えのAクラスもとりたてはじめのDクラスも、10名ほどの若い娘さんたちも気勢をあげたり、頭をかいたり、楽し気に騒いでいた。

昭和31年1月24日 北海道新聞  
**札幌A組優勝 札鉄カルタ大会**

【室蘭】札幌管内車掌区の第5回対抗カルタ大会は22日室蘭市開運町鉄道クラブに札幌、岩見沢、追分各二チームが参加して熱戦を展開したが、決勝戦には札幌A組と岩見沢A組が駒を進め接戦を演じて札幌A組が優勝した、成績次の通り ①札幌A ②岩見沢A ③札幌B

昭和31年2月28日 北海道新聞  
**深川北陽クが優勝 全道カルタ大会**

【名寄】名寄歌留多連盟主催の全道下の句カルタ大会は札幌、旭川、北見など道内各地から1流2流あわせて28チームが参加して25日から夜を徹して白熱的試合を続行、決勝は26日夜に至る見込みだったが決勝4チームのリーグ戦に入って札幌対旭川チームの試合がこじれ、主催者側も裁定出来ず止む無く抽選で上位4チームの順位を決めた。

1流①深川北陽クラブ ②旭川赤翼クラブ ③同白虎 2流①旭川赤翼クラブ月光②同星③同菊

昭和31年3月24日 北海道歌留多連盟歌留多連盟大会特報  
**第六回連盟下の句歌留多連盟大会**

同日札幌市菊水西町七丁目 於 割烹『正月』 で開催

昭和32年1月14日 北海道新聞

### ウスベリ敷いてカルタ大会 江別市役所で

江別市役所福利厚生会主催の新年恒例のカルタ大会が、12日のひる下がり2階大会議室で行われた。板の間にウスベリを敷いた即席の会場には混成チームの男女選手45名が出場。各課員の応援をうけて『乙女の姿しばしとどめん』『ハイ』と木札を飛ばし常日頃おとなしいお嬢さんも男性軍に負けじと活発なところをご披露していた。

昭和33年1月9日 北海道新聞

### 夜まで熱戦繰り展ぐ 北見四条東子供かるた大会

【北見】いまでは北見市内の正月名物になった“四条東方子供かるた大会”が7日北見市4条東4丁目平田一雄さん宅で開かれた。100人をこえる地区の小中、高校生に父兄や先生も加わり、町内あげての盛大なカルタ会で、この会は戦時中交通整理班を結成したり防空演習に協力した子供たちへの恩返しに始めたものが、ことし14回を迎えたもの。第1回のメンバーがいまでは審判員になるまで成長している。試合は小、中、高校、混成と班対抗にわかれ。賞品も優勝盾のほかノートなど盛沢山で、夜まで熱戦を繰り展げお母さんたち心づくしのお汁粉などに腹をみたし、7日正月をこころよくまで楽しんだ。

昭和33年1月18日 北海道新聞

### 掛声も賑やか 支庁で新春カルタ大会

【留萌】掛声も賑やかに留萌支庁の“新春カルタ大会”が15日午前10時から同支庁の寮“留萌荘”で行われた。試合は各課対抗のリーグ戦で、集まつたのは各課より抜きの選手たち約40人余。マツタの声が盛んにかかるやら、どっちが先に取ったかでもめるやらにぎやかな大会だったが結局Aブロック、Bブロックとも拓殖、耕地両課混成チームが他の強豪を打ち破ってめでたく優勝した。

昭和33年1月12日 北海道新聞

### カルタを楽しむ 上富良野の自衛隊員

上富良野の自衛隊員の隊員たちはよく娯楽室でカルタ会を開く。厳寒の十勝山ろくでスキー訓練などの余暇を楽しむ一ときだが、たまには町民対抗カルタ大会を催したりして親善に心がけている。

昭和34年1月6日 北海道新聞

### 豊平町長杯争奪カルタ大会

豊平町カルタ連盟主催、豊平町教委、北海道新聞社など後援の第2回豊平町長杯争奪町民カルタ大会は10日午後6時から月寒会館2階日本間で開かれる、参加申込は会費1組300円をそえ9日まで町教委へ

昭和34年1月7日 北海道新聞

### カルタ会

5日午後から稚内市役所職員クラブで開かれた同職員カルタ大会は、腕に自慢の男女15人、5チームが参加しての決戦、これはまた活発な正月風景だった。

昭和34年1月9日 北海道新聞

### ゆく正月を楽しむ

○7日は七草、市内の各家庭では七草ガユをたいて正月を楽しんだが留萌市役所でも午後2時に切上げ、職員は早々に帰宅した。またこの日“秋の田のかりほの庵のとまをあらみ我が衣では露にぬれつつ、など百人一首に打ち興ずる姿があちこちにみられ、のどかな正月を過ごしていた。

昭和34年1月12日 北海道新聞

### カルタ大会

札幌職場カルタ同好会は12日午後6時から職場対抗カルタ大会を札幌市豊平1の2昭願寺で開く

昭和34年1月27日 北海道新聞

### みんな強者ぞろい 留萌市南町でカルタ大会

○正月気分もちょっと薄らいだ25日の日曜日、留萌市南町振興会(住民約200戸会長小茂氏)で恒例のカルタ大会をおこなった。選手は町内各地区から選ばれて出場した強者ばかり?の10チーム南町の公民館を会場に午前11時から幕を開けたが各選手たちは奥さんやら子供たちの応援に元気いっぱい。一日にぎやかなカルタ取り風景をみせていた

昭和34年1月28日 北海道新聞  
**東中が優勝 連青で自衛隊と交歓カルタ大会**

【上富良野】上富良野の自衛隊と連合青年団との第4回交歓カルタ大会はこのほど自衛隊内の娯楽室で10チームが参加して競った。昨年は部隊側から優勝が出たがことしは地元青年団が好成績、東北地方出身の隊員が多いが、北海道のカルタ取りは下の句だからどうも拍子抜けでぴったりこないっていう声もあった。上位チーム次の通り ①東中 ②江花 ③五大隊

昭和34年1月29日 北海道新聞  
**熱戦のカルタ大会**

【三笠】三笠市住友彌生鉱鉱友会の彌生新年カルタ大会は25日午前9時から同鉱花園集会所で開かれた、全道大会への夢をかけるテング連約30人が集まり、1枚はカラ 三笠の山にいでし月かも”と読手の愛きょうにはじまり10チームによる白熱的タイトル戦を展開。結局瓜生、中村、相原組が優勝した。成績次のとおり ①瓜生、中村、相原組 ②相馬、中谷、下村組 ③藤本、中山、高沢組

昭和34年2月16日 北海道新聞  
**二流では名寄翠月 名寄の全道下の句カルタ大会**

【名寄】名寄カルタクラブ主催の全道下の句カルタ大会は、14日午後8時から15日にかけ名寄市内のすみれ旅館で開かれた。参加者は地元名寄をはじめ帶広、岩見沢、旭川などの24チーム72人。いずれも一、二流を名乗る腕に自慢のつわものばかり全道大会とあって市民がつめかけ夜通し熱戦を続けたが下の句を読んで下の句を取る北海道独特のカルタ会だけに気合がこもりお互いに手も口も負けじ劣らじの激しい攻防戦を繰広げてぎわった。成績次のとおり

△一流①岩見沢梅ガ枝（天池、梅沢、江川）②旭川赤翼の松 ③旭川大雪の天龍④旭川大雪の紫龍  
△二流①名寄翠月（久保、伊与本、小西）②浜頓別白嶺の銀 ③美深纏 ④美深小纏

昭和34年2月17日 北海道新聞  
**【置戸】店員のカルタ大会**

置戸商工会厚生委員会では19日の定休日を利用して午前9時から中央公民館で店主、店員の楽しい“カルタ会”を催すことになった。チームは店主と店員を分けて構成するが、会費は店主100円、店員50円。

昭和35年1月3日 北海道新聞  
**歌 留 多**

『金色夜叉』の寛一とお宮が、初めての出会いがこの歌留多会だったのはみなさんごぞんじ。カルタといつても、いろはカルタ、花カルタなどいろいろあって、元祖は百人一首と呼んでいる歌カルタ。その歌カルタも藤原定家選ぶところの小倉百人一首が始まりで、後世これにならっていく種類も出ている。室内遊戯とし行われたのが江戸時代の初期から。むかしは上流社会だけのものだったらしいが、いまでは一般に普及して、正月のつきものにまでなっている。ただ北海道と本州では札の読み方がちょっと違う。たとえば『天津風くもの通ひぢ吹きとぢよ乙女の姿しばしとどめむ』の場合、本州では『天津風・・・』と呼んで『乙女の・・・』の札を取るが、本道では上の句は最初の一枚カラ読みするだけで二枚めからは読みまず、下の句『おとめの・・・』だけ読んで札をとるのが広く行われている。値段は木札で250円から350円、肉筆のが印刷より高いのは将棋のコマ同様。紙製は読み札とも350円から500円くらい、結構読まれているそうである。

ボルトガル語の(Carta)からきているという

昭和35年1月7日 北海道新聞  
**気合も十分 北農連でカルタ会**

【北見】5日午後、北見農業団体の職員たちが北農連大會議室で恒例の新春カルタ大会を開いた。男女30人が10チームに分かれトーナメントで試合を始めたが、どの組もすさまじい気合で、正月気分をたっぷり楽しんだ。

昭和35年1月9日 北海道新聞  
**・ハイッ・ハーイ 留萌中一年生がカルタ大会**

【留萌】冬休みの1日を楽しく遊ぼうと留萌市立中学校で1年生がクラス対抗の百人一首カルタ大会を開いた。8クラス代表男女別の16チームが8組に分かれて対戦読み手の先生が『三笠の山にいでし月かも』と読み上げれば、すかさず“ハイッ”“ハーイ”と元気のいい声があがり、回りから応援団の拍手も飛んで楽しいなごやかな正月カルタ大会だった。

昭和35年1月10日 北海道新聞

### 威勢よくカルタ会 仏教青年会

○乙女の姿しばしとどめん———ハイッ ウワッという歓声が大広間いっぱいに広がってタタミをたたいてくやしがる者、得意満面札を回す者。いっしゅんしづまつた部屋にゴウゴウ燃えるストーブのおとが高い。これは9日、札幌仏教青年会(会長地崎宇三郎さん)が新年初の例会を兼て西本願寺別院で開いたカルタ大会のひとこま。

昭和35年1月22日 北海道新聞

### 男子中央 女子栄進 青年団対抗カルタ大会

【比布】比布村連合青年団では20日午後1時から公民館本館大広間で青年団対抗カルタ大会を開いたが成績次の通り△男子の部 ①中央青年団(谷、谷口、今井組) ②旭青年団 ③義勇青年団  
△女子の部 ①栄進青年団(森恵子、森ひろ子、鶴飼組) ②南青年団 ③東青年団

### 一位は一区一般 千代ヶ岡カルタ大会

【千代ヶ岡】青年団、公民分館共催の千代ヶ岡カルタ大会は20日千代ヶ岡中学校で行われたが成績次のとおり、なお1位の一区一般チームには道新賞、副賞がおくられた

①一区一般(井上、小山、東) ②一区青年 ③八区一般 ④木工

昭和35年1月22日 北海道新聞

### 第八公区で子供カルタ大会

【士別】青少年の犯罪防止を目的として昨年夏発足した士別市の第八区父母と子供会では、子供に健全な娯楽を与えようと20日午後1時から南大通り天理教士別分教会で子供カルタ大会を開いた。集まつたのは同公区内の小、中学生54人、1チーム3人で18組に分かれ、大友会長らが読み"百人一首"を元気いっぱい午後5時半まで楽しんだが成績次のとおり

①村上、高橋、古川 ②田中(悟)鈴木(秀)鈴木(広)③水口、江川、村上 ④古川、藤原、佐藤(政)  
⑤加藤、石川、出合⑥桜井、佐藤(勇)田中 ⑦柏倉、渡辺、佐藤(悦)⑧大友、田宮、古川

昭和35年1月26日 北海道新聞

### 増毛で全町カルタ大会

【増毛】町長杯、教育長杯をかけた増毛町の第3回全町カルタ大会は24日正午から増毛町公会堂で開かれた。出場チームは役場、郵便局など7チーム、昨年より少なかつたがそれだけにいずれも腕におぼえのある一騎当千の強者揃い、下の句カルタの1枚をとるたびに畳をたたいて気勢をあげ、瞬間の勝負に息づまる熱戦を繰り展げた。成績次のとおり ①町役場 ②ハイヤー ③増毛郵便局

昭和36年1月5日 北海道新聞

### あの町この町 美瑛 かるた大会と麻雀大会の入賞

2日前9時半から旭川農業会館で美瑛中学校かもめ会の新春カルタ大会が行われた。入賞者次の通り①片野春市、早坂幸雄、稻葉裕子②山本春雄、村田一江、森川律子③筒井雪江、下郷吉祈、野村洋子  
敢闘賞 大森サワ

昭和46年1月7日 北海道新聞

### 防犯かるた大会 士別八公区

【士別】士別市八公区の父母と子供の会会长大友二郎さんでは5日午後1時から士別警察署で約50人が参加して防犯青少年少女かるた大会を開いた。小野寺警察署次席らと『しんねんおめでとう』とあいさつしたすぐさま競技にはいり、大友会長らが読みあげる"百人一首"を元気にとりまくり楽しい一日を過ごした。成績次のとおり。

△小学生の部 ①石村、水口、横山(義) ②古川(英) 石立、横山(修) ③石川、村上(信) 村上(高)  
④茂川、石山、進藤 ⑤古川(春) 吉見、秋葉 △中学生の部①後藤、小坂、木島②出合、横山義、杉野  
③山宮、佐藤政、渡辺 ④茂川(清) 谷、清野 ⑤鈴木、滝川(悟) 滝川(民)  
△青年の部①高橋(武) 古川(健) 飯浜 ②中丸、高橋、佐藤(正) ③若林、扇屋、足利

昭和36年1月12日 北海道新聞

### 夜遅くまで熱戦 上湧別 新春かるた大会開く

【上湧別】上湧別町体育協会レクリエーション・クラブでは新春レクリエーションとして一般町民も参加して10日午後2時から中湧別産業会館で新春かるた大会を催した。同大会は一流と二流に分け3人1組のチームが大鵬・浪人・銀鬼など思い思いのチーム名をつけ、10数チームリーグ戦でおこなつたが、1枚とるごとに気合がはいり午後10時ころまで熱戦が繰り広げられたが夜になると観衆おしかけて、終始正月らしい雰囲気に包まれていた。

昭和36年1月13日 北海道新聞

### かるた大会

かるた保存会新春下の句かるた大会は21日午後1時から、まるは食堂、大広間で開催する3人1組で会費1人200円。賞は1位から5位まで、出場者全員に参加賞と夜食が出る。希望者は20日までに商工会事務局または吉原商店へ申し込むこと。なお町外チームは受け付けない。

昭和36年1月13日 北海道新聞

### 大雪青年会でカルタ大会

東川町大雪青年会は13日午後3時から公民館でカルタ大会を開く。

昭和36年1月17日 北海道新聞

### カルタ支庁一を競う

○留萌支庁職員の新春恒例のカルタ会が15日午前11時から同支庁留萌荘で行われた。各課対抗で支庁一のウデを競ったが、3人1組の選抜メンバーはいずれも口八丁手八丁の猛者ばかり。1枚取るたびに畳をたたいてへや中を走り回るという気合いのはいった熱戦がくりひろげられて、一勝負終わると選手の顔と手はホコリで真っ黒。○ 中林課長などご年輩もまじっていたが若い職員が多いだけに、乙女の札には目の色変えて3,4人が手を出すという正月らしいなごやかなカルタ会だった。

昭和36年1月20日 北海道新聞

### 高等公民学校で新年の集い

当麻高等公民学校では、このほど「新年の集い」を開き、安達町長の話のあと生徒会がカルタとりなどをして楽しいレクリエーションの一日を過ごした。

昭和36年1月27日 北海道新聞

### お正月ともお別れ 山部で青年カルタ会

【山部】1月もあとわずか、残り少なくなった正月気分を味わう下の句カルタ会がこのほど青年有志によって山部公民館で催された。ほかに求める楽しみが多いこのごろだけに、以前のような盛会さは影をひそめたがそれでも女性を交えた30人ほどの青年が参加して、明るい笑い声と読み手の元気な声を厳寒の夜にひびかせていた。

昭和36年1月27日 北海道新聞

### 滝上かるた大会

滝上かるたクラブでは第2回全滝上下の句かるた大会を28日午後6時から町民会館で開く。会費は1チーム600百円で当日午後6時まで開場で受け付ける。

昭和36年1月31日 北海道新聞

### 比布青年団懇親カルタ大会

村青年連合団では29日公民館本館で単位青年団懇親カルタ大会を開いた。成績次のとおり  
△男子 ①義勇 ②旭 ③中央 △女子 ①旭 ②東 ③南

昭和36年2月1日 北海道新聞

### 愛別全村カルタ大会

村公民館主催全村カルタ大会がこのほど開かれた。成績つぎのとおり

①愛山B ②商工会B ③役場A ④農協B ⑤農協A

昭和36年2月5日 北海道新聞

### 若い者にマケジ

3日午後5時すぎ、増毛町議会事務局から「天の原ふりさけ見れば春日なる」とのどかなカルタの読み声が流れて、賑やかにカルタ取りが行われていた。カルタを挿んで対戦しているのは西川収入役はじめ村上総務、押味税務、米田建設の各課長に出雲議会事務局長という役場のお偉方ばかり。それというのも5日の日曜日に同町で40歳以上と以下にわけた下の句カルタ大会が開かれるので、役場のオールド・ボーイ連が40歳以上の部に出場しようと手ならしをはじめました。それぞれ腕に自信のあるような構えだったが、ポンポンとハンを押すような具合にはいかないらしく、税務課長のいうのには『税金を取るより難しい』それでも大会の優勝旗は役場チームがもらったと意気軒高だった。

昭和36年2月27日 北海道新聞

### 町内一を競う 黄金団地親睦会でカルタ大会

【留萌】留萌市大町の市営、道営住宅などの入居者を中心に組織されている黄金団地親睦会の加藤

彦一會長が午前9時から町内のおふろ屋さんを会場にして親睦下の句カルタ大会を開いた。午前は子供の部、午後はおとなの部で両脱衣所に2組ずつの4組が番台にすわった読み手の声で一度にとるというにぎやかな大会。それぞれ町内一をめざして腕をきそつたが、集まった人がお互に日ごろ顔見知りのせいか、打ちとけたなごやかなふんい気のカルタ大会だった。

昭和37年1月7日 北海道新聞

### お手並みあざやか 少年少女カルタ大会

【士別】市内第八公区の新春防犯青少年少女“百人一首”カルタ大会が、5日午後1時過ぎから士別署よこの道場でにぎやかに催された。これは八公区父母と子供の会が、同公区内の青少年たちに健全なレクリエーションをと催したもので、今年が3回目、会場には公区内の小、中、高校生たち約60人や父兄、お母さん方多数が集まり、大友二郎会長のあいさつに引き続いて直ちに協議開始、小学生低学年の“いろは”カルタ会ののち“百人一首”的取りのワザを競ったが、ハイッハイッと元気なかけ声が会場いっぱいにひびきわたり、札さばきの手並みは、なかなかあざやか。競技の結果3位までの入賞者はつぎのとおり決まり、賞品やメダルをもらってニコニコ顔だった。

▽小学生の部 ①石立卓、横山修治、石村一彰 ②古川英文、大平一葵、飯浜進 ③古川政範、菅原勝  
山田真（以上南小） ▽中学生の部 ①水口洋子、横山房枝、石村静子 ②石川宇多夫、佐藤政満、武森武  
③田宮周示、宮野伸、中村正文（以上南中）

昭和36年1月7日 北海道新聞

### 青年団カルタ大会成績

【興部】興部町青年団体協議会主催の各青年団対抗カルタ大会はこのほど公民館で8チームが参加して開かれたが新興青年連盟が優勝した。成績つぎのとおり

①新興青年連盟 ②開北青年団 ③秋里青年団 ④住吉青年団

昭和37年1月8日 北海道新聞

### “ハイ、ハイ”と元気よく 子供カルタ大会

【北見】北見市の町内会の一つ四条東方会（会長畠武次郎氏）主催の新春子供カルタ大会もことしで18回目を迎え、7日午後2時から同会の平山一雄さん宅に小学生や中学・高校生など45人が集りにぎやかに行われた。学校ではおそわらないめんどうな字の札にも形でわかるようになっており読み手の声に“はいはい”と元気よく札をとる。試合の合間には同会のおかあさんたちがつくってくれた、おしごとに舌つづみを打ちながら楽しい半日をすごしていた。

昭和37年1月11日 北海道新聞

### 役場職員会のカルタ大会

【雨竜】町役場職員会では11日午後5時から役場会議室でカガミ開き、新年カルタ大会を催す。

昭和37年1月12日 北海道新聞

### みんな楽しくカルタとり

【留萌】“今年もみんな元気でなかよくー”と市内東光小の新年子供会が10日同校で開かれ、お父さんお母さんも交え、かるたやトランプ遊び、ドッジボールなどで楽しいひとときを過ごした。この日は全校児童の登校日で久しぶりに顔を合わせた子供達は休み中の勉強ぶりを先生にみてもらったり、楽しかった正月のようすを話し合って大はしゃぎ。そのあとクラスごとに教室にござを敷いてお母さんたちが持ち寄ったおもち、ミカンなどをほおぱりながらうれしいかるたやトランプの対抗戦。“はーいありました”と元気な声があちこちから起きて明るい笑いがたえなかった一日であった

昭和37年1月13日 北海道新聞

### カルタ大会

【天塩】町カルタ保存会では13日午後1時から14日にかけて寿養寺でカルタ大会を開く

昭和37年1月14日 北海道新聞

### カルタ会で楽しむ 身障者の職訓 一足早い成人式

琴似町山の手の道立身体障害者職業訓練所の成人式が13日午後零時半から行われた。同所訓練生でことし成人になった男子2人、女子4人の計6人。いずれも不自由ながら更生の意欲に燃えて訓練を受けている人たち。阿部所長はじめ先生方から記念バッジを胸につけてもらった『新成人』たちはクラスメートからも拍手を送られた。続いて市長のメッセージ、訓練所からお祝いのシャープペンシルを贈られ、松尾徳子さんが成人を代表して答辞を述べた。このあと職員をまじえてカルタ大会を楽しんだ

昭和37年1月18日 北海道新聞  
**働く青少年の“カルタ大会”**

【紋別】職場で働く青年若人のカルタ大会が16日午後3時から公民館で行われた。16日はヤブ入りで中小工場、商店は休業するので職場の若人を一日ゆっくり楽しませてやろうと市社教が催したもの。この日青年学級生や働く職場のグループ『ハーモニークラブ』の若人たちおよそ50人が集り2組にわかれでカルタ大会を楽しんだ

昭和37年1月19日 北海道新聞  
**町民カルタ大会**

【富良野】富良野カルタクラブ主催の町民カルタ大会は20日午後6時から東光寺で開かれる。3人1組で申し込みは重綱理容院あて

昭和37年1月20日 北海道新聞  
**町内かるた大会**

【愛別】町では20日午後1時から公民館で全町内かるた大会を行う

昭和37年1月26日 北海道新聞  
**町長杯争奪カルタ大会**

【浜頓別】町連合自治会主催の町長杯争奪カルタ大会は27日夜7時から消防会館で開かれる。約150人が参加し、27日夜は徹夜で28日正午ころまでかかる。

昭和37年1月28日 北海道新聞  
**連青カルタ大会**

【比布】町連合青年団では28日午前9時から公民館本館でカルタ大会を開く。当日は男子7チーム、女子8チームが参加する。

昭和37年1月28日 北海道新聞  
**おくればせながら新年例会 店員さんたち**

【網走】市中心の商店街がつくっている網走専門店会青年（会長渡辺昭三さん=33）の3回目の新年例会がおくればせながら26日夜市内の加盟店を会場に開かれた。付近の店につとめる各従業員100人が顔をそろえ百人一首、トランプ、マージャンなど思い思いにグループをつくって楽しんだが忙しかった年末年始の仕事のつらさも吹き飛ばすほどの元気で、にぎやかな歓声をあげていた。

昭和37年1月30日 北海道新聞  
**まだ正月の気分で 囲碁、カルタ大会開く。**

【名寄】“まだお正月”と思わせる二つの会が28日市内で行われた。ひとつは名寄囲碁クラブ主催の第11回市長杯争奪新春囲碁大会。午後1時から名寄農共済組合階上で行われたが、名寄地方の囲碁でもっとも大きな行事とあって、市内はもちろん近郊町村から約100人の囲碁ファンが参加。会場は身動きもできないほど、会場一杯に盤をならべて、パチリパチリと深夜まで文字どおり黑白を争ったいっぽう名鉄総合事務所では名鉄クラブの新春カルタ大会が行われた。名鉄管内の各職場から15チーム50人の選手があつまってむかしながらのどかな新春風景。読み手の美声にはげしいかけ声がいりみだれ会場は正月気分でいっぱいだった。

**役場Cに道新賞 下川でもカルタ大会**

【下川】町カルタクラブ主催のオール下川カルタ大会は27日午後8時から共栄町『満月』階上に町役場チームなど9チームが参加して行われた。成績は次のとおりで道新賞は役場Cチームが獲得した。

①役場Cチーム ②電通チーム ③満月チーム

昭和37年2月2日 北海道新聞  
**子供カルタ大会**

【天塩】町教委、防犯協会、愛のみちびき会共催の町内子供かるた大会（百人一首）は4日午前10時から天塩小学校で開く

昭和37年2月6日 北海道新聞  
**見事な手さばき 天塩 にぎやかに子供かるた大会**

【天塩】町教委、防犯協会、愛のみちびき会共催の第一回町内こどもかるた大会（小倉百人一首）は4日午前10時から天塩小学校に小学生の部11チーム、中学生の部6チームが参加して行われた

昭和37年2月13日 北海道新聞

### め組（美深町）が優勝 市町村対抗かるた大会

【天塩】天塩かるた保存会主催の市町村対抗北海道下の句かるた大会は10日午後6時から11日の午後にかけて天塩町の寿養寺で、27チームが参加して開かれた。さすがに各市町村代表のベテランぞろいの試合とあって気合のこもった熱戦がくりひろげられた。成績次のとおり

- ①美深纏のめ組(広瀬、久保、大櫃) ②名寄市飛竜の梅(橋本、長谷川、村山)
- ③天塩町桜(園田、高橋、元山) ④中川朔北の寅(平野、川田、若山)

昭和37年2月20日 北海道新聞

### 飛竜の梅(名寄)優勝 北部北海道カルタ大会

【名寄】北部北海道下の句カルタ大会が17日、18日両日市内羽衣荘で行われた。遠く天塩、浜頓別などから腕におぼえのある面々、16チーム50余人が集まり、17日午後8時から18日の午後2時まで徹夜で熱戦をくりひろげた。読み手の声に応じてはげしい掛け声、タタミを打つ音と選手たちはみんなすさまじい意気込み、エキサイトした大会の空気だった。成績次のとおり。

- ①飛竜の梅=名寄(川口、池辺、信岡) ②白嶺の銀=浜頓別(長沢、渡辺、加賀谷)
- ③天流の竹(西野、本山、中村) ④飛竜の松=名寄(村山、橋本、長谷川)

昭和37年3月16日 北海道新聞

### 鴻乃舞と遠軽町の交歓かるた大会

【紋別】恒例の紋別市鴻乃舞と遠軽町の交歓かるた大会が、18日午後6時から鴻乃舞第二クラブで開かれる。ことしは紋別市街や湧別からも参加申し込みがあり、熱戦が予想される。

昭和38年1月4日 北海道新聞

### 一流で大場組が優勝 鴻乃舞金山カルタ大会

【鴻乃舞】鴻乃舞金山カルタ大会は2日午後6時から鴻乃舞鉱業所第二クラブで開かれた。参加したのは一流チーム5組、二流チーム7組で、競技終了まで7時間にわたり熱戦。一流チームでは大場組。二流チームは村上、佐藤、土山組が優勝した。成績つぎのとおり ▽一流大場組(若井正芳、大場実武田鳶夫) ②中村組(佐藤、中村、鎌田) ③後藤組(後藤、根本、高根沢) ▽二流①村上正行、佐藤春三、土山富男組②高橋、若井田、田村組③樋口、本多、菅組④松原、山崎、紺瀬組

昭和38年1月7日 北海道新聞

### あふれる子供の意気

【士別】5日午後1時から市内八公区父母と子供会、若葉子供会共催の新年青少年少女カルタ大会が士別署道場で開かれた。会場には小、中、高校生が約百人集まり低学年の児童たちは防犯いろはカルタ、高学年は板カルタをそれぞれ三人一組にわかれて熱戦、読み手の声に『はい』という大きな声が会場いっぱいに響きわたっていた。成績次のとおり

- ▽小学生の部 ①川本、山田、鎌田組 ②足利、藤原、吉見組 ③水口、佐藤、寄金組
- ▽中学生の部 ①佐藤、横山、飯浜組 ②魚住、足利、藤原組 ③山田、吉川、石立組

昭和38年1月8日 北海道新聞

### 四十五人が大はりきり 子供カルタ大会

市内の町内会のひとつ、四条東方親ぼく会(高武次郎会長)が町内の子供たちを集めて行なう恒例の正月カルタ会は7日午後2時から同会副会長の平田一雄さん宅で催された。ことで19回目を数えたこの日、あいにくの猛ふぶきに見舞われたが、午後1時ごろから続々と子供たちが元気な顔を見せ小学生8チーム、中学生5チーム、高校生2チームの合計45人が勢ぞろい。6時過ぎまでの4時間楽しく過ごしていた。詠み手役を勝って出た榎通東小教諭はこのカルタ会第1回の出場選手で『さあ始めるぞ』と大ハリキリ。『ハイ!ハイ!』『ア!お手つき』はしゃぐ子供たちの声も明るい。お母さん達もちも『しっかり』と応援しながら、おしるこやミカンを出してしきりに世話をしていた。

昭和38年1月11日 北海道新聞

### あすカルタ大会

【天塩】町かるた保存会は12日午後6時から天塩小屋内体育館で職域対抗下の句かるた大会を開く

昭和38年1月12日 北海道新聞

### にぎやかな歓声 音江と深川でカルタ大会

松がとれたとはいまだ正月気分の抜けやらぬ10日、音江と深川で青年と子供たちのカルタ取りがにぎやかに開かれた。

【音江】稲田青年団と稲田農協青年部では10日午前10時から稲田公民館で青年新年カルタ大会を開

いた。稻田地区の5部落で部落対抗を行ったがしばらくカルタと遠ざかっただけにはじめのうちは『どうも手がない』と調子悪そう。しかしだんだんなれてくると本調子がでてきて『やはり昔の腕はにぶっていない』と大いに熱戦をくりひろげた。この結果第37部落が優勝した。成績次の通り

①第三十七部落 ②第三十五部落 ③第三十六部落

【深川】天理教の新年子供会が10日午後、雨竜分教会で開かれ、近所の子供たち30人余りが集まつて紙しばいやカルタ取りで楽しんだ。これは天理教青年会のキモ入りで、ほとんどが信者でない家庭の学齢前や小学校の子供たち。はじめかしこまつて神様にお参りしていたが、教会のおにいさんやおねえさんたちに童話を聞いたり、かわるがわる歌をうたっているうちに、すっかりなれて大はしゃぎ。つづいて紙しばい、カルタ取り、トランプなどを楽しんだが、会場はたえずぎやかな歓声がいっぱいだった。

昭和38年1月15日 北海道新聞

#### A級で郵政A 1位 天塩の職域対抗カルタ大会

【天塩】天塩町かるた保存会は12、13の両日天塩小屋体で38年度職域対抗下の句かるた大会を行つた。成績つぎのとおり

▽ A級①郵政A(田牧、佐藤、谷角) ②開発(茨木兄、茨木弟、高橋) ③雄信内桑村(桑村、閔、木下)  
④高校(定平、森野、鈴木) ⑤町役場(塙、板倉、大次) ▽ B級①郵政B(定平、星井、木谷)  
②天塩印刷(柳井、竹田、糸山) ③漁協組(小野、木村、白井)

昭和38年1月18日 北海道新聞

#### あす道北カルタ大会

【中川】中川カルタ愛好会主催の道北下の句カルタ大会は19日午後6時から中川青年会館で開かれ。参加区域は和寒以北稚内まで、希望者は1チーム900百円を添えて中川村広瀬健次方に18日までに申し込めばよい。

#### 子供カルタ大会の成績

【下川】町B B S主催の公区対抗子供カルタ大会は15日川島珠算熟で町内各公区から10チームが参加して行われ、幸町Cチームが優勝した。成績次のとおり

①幸町C(谷幸明、中沢俊文、佐々木敏明) ②錦町 ③末広町、幸町E

昭和38年1月19日 北海道新聞

#### 福笑い大会で楽しむ

【深川】深川駅小荷物室の福笑い大会が17日午後鉄道集会所で開かれ、職員や奥さんが数々の余興で楽しんだ。この日は20数人の職員に約20人の奥さんたちがそろつて参加、手製の料理にパクついたあと8チームに分かれてカルタ取り。向こうハチマキのおじさんや腕まくりしてがんばるご婦人もいてたいへんなはしゃぎよう。続いて婦人のボーリング大会、福引などを行い“福笑い大会”にふさわしい半日を過ごした。

昭和38年1月19日 北海道新聞

#### 楽しく半日すごす 西区元町子ども会 新春カルタ大会開く

【遠軽】町内“西区元町子ども会”は17日午後1時から集会室で“新春子どもカルタ大会”を催した。この日集まつたのは小、中学生あわせて約100人、城岡さんらが読み手になって中学生は百人一首、小学生はいろはカルタ取りを行い。夕方まで楽しい一日を過ごした。この子ども会は昨年秋、同じ通学区の小、中学生を対象に、子どもの健全育成をはからうと同じ町内の城岡元一、吉田政一、島田典子、久保静枝さんらのおとうさんやおかあさんらの世話役で結成したばかり、まだ役員も決めていないが、学習会や炊事遠足、盆踊りなど楽しいレクリエーションに子どもたちから喜ばれている

昭和38年1月20日 北海道新聞

#### 第二、第三ひまわり会が優勝 子供会カルタ大会

【美深】町青少協主催第1回子供会対抗カルタ大会は、17日公民館に31チームが参加、小、中学生チームに分かれて開かれた。成績次のとおり。

▽小学生チーム ①三ひまわり会隼A(成毛、山口、杉山) ②二ひまわり会白鳥(本間、阿部、大櫃) ③同白百合 ④同春龍 ▽中学生チーム ①二ひまわり会すずらん(藤岡、山川、大櫃)  
②一ひまわり会零戦(田中、東、高橋) ③三ひまわり会まとい④同まとい

昭和38年1月22日 北海道新聞

#### あのまち このまち

☆上富良野で町民と自衛隊の交歓かるた大会は19日町青年研修所2階講堂に町内カルタ愛好者、上富良野自衛隊代表40人が参加して開かれた。読み手の声が終わらないうちにサッと手がのび1枚、1枚

宙に舞うように札が飛び、掛け声がかかる熱戦が5時間にわたってくり広げられ、結局自衛隊業務隊管理科チームが優勝し町公民館長杯を獲得した。成績次のとおり

- ①業務隊管理科（手塚勇、町田正保、池田志津夫）②商協売店組合（原一吉、及川義光、温泉弘呂志）  
③三一五武器整備中隊（松本三郎、木村功、林晴美）

昭和38年1月22日 北海道新聞

### 一流は谷藤組が優勝

【紋別】第3回紋別市民かるた大会は19日午後8時半から一流6、二流13計19チームが参加、紋別市自民党会館で行われた。熱気を帯びた会場の熱戦（敗者復活戦）は20日午前10時半まで続き、一流では谷藤、田中、水戸部組、二流では鴻之舞の佐藤、吉田、高根沢組がそれぞれ優勝した。成績次の通り

- 【一流】①紋別鉄血の金（谷藤、田中、水戸部）②同鉄血の元（能戸、高木、白井）③鉄血（八重樫、斎藤福士）④鉄血の銀（水沢、皆川、勝山）【二流】①鴻之舞飛竜A（佐藤、吉田、高根沢）②同飛竜B（若井上川、菅）③紋別彗星（斎藤、三島、西川）

昭和38年1月23日 北海道新聞

### 中川村星組が優勝 道北下の句カルタ大会

【中川】中川カルタ愛好会主催の道北下の句カルタ大会は19日、20日の両日、中川村青年会館で25チームが参加して行われ、熱戦の結果中川村星組が優勝北海道新聞社賞、岡田中川村長旗が贈られた成績次のとおり ①中川村星組（山田、田中、長谷部）②同月組③美深町まとい組

### 一位は大雪 風連で新春カルタ大会

【風連】町公民館、カルタ保存会共催の第4回新春カルタ大会が20日夜割ぱう“まるは”で12チームが参加して開かれた。順位次のとおり

- ①大雪（橋本、松岡、小原）②花と竜（伊賀、花井、橋本謙）③保存会（渡辺、坪崎、丸箸）

昭和38年1月29日 北海道新聞

### カルタ大会で熱戦 寒さゆるんだ日曜日

【士別】市内はここ数日寒波に見舞われ、数日マイナス30度という寒さがつづいていたが、27日の日曜日はその寒さもようやくおさまり、1月最後の日曜日を楽しむ姿が目立った。この日午前10時から市中央公民館で、同公民館、士別カルタクラブ共催の“新春カルタ大会”が開かれた。職場や町内の愛好家たちのチーム15組が参加、約9時間にわたって熱戦を展開、読み手のどかな声が窓から流れ、一月らしい風景をかもしだしていた。成績次の通り ①乱蝶（佐藤則夫、内田秀男、渡辺敏一）②若冠（野口光、柏倉新栄、佐藤勝）③飛竜（遠藤勇、本田健司、竹田勝美）

昭和38年1月29日 北海道新聞

### 気分も若返り おえら方がカルタ大会

町内の官公庁、会社などのおえら方ばかり20余人が、26日中頓別駅前、登鱈料亭で新春カルタ大会を開催した。町長、校長、駅長など、ふだんいかめしい顔をしている人たちも、この日ばかりは、豆しばりでねじりハチ巻き、威勢よく畳をたたいていた。○・・この会は毎年開いているがマージャンなどと違った、笑いの親ぼくになるから、これからも続けるという =中頓別=

昭和38年1月30日 北海道新聞

### 息をのむ早わざ 山部、比布で青年かるた大会

【山部】公民館主催の青年かるた大会は27日青年の家に9チームが参加して開かれた。各チームとも職域や青年学級の中からよりぬきの選手を集めているだけに、とり手の早わざに見守る観衆も息をのむほどの熱戦が展開された。熱戦の末次のチームがそれぞれ入賞した。

▽1位 四町内青年部 2位 野沢青年部 3位 一町内青年部

【比布】町連合青年部、公民館主催の全町青年団かるた大会は27日、公民館大講堂で開かれ、男子12チーム、女子9チームが熱戦を繰りひろげたが、結果男女ともに旭青年団が優勝した。

成績次のとおり ▽男子の部 ①旭 ②義勇 ③中央 ▽女子の部 ①旭 ②向陽 ③義勇

昭和38年1月30日 北海道新聞

### 漁協Bが優勝 町内カルタ大会

【遠別】第2回遠別町内下の句カルタ大会は27日、公民館に15チームが参加して開かれた。成績次のとおり ▽優勝=漁協B（鎌田敏夫、内田孝、野村豊）▽準優勝=白椿（内山嗣郎、半沢政一、伊藤幸吉）▽一位=守谷組A（三木正義、樋口礼治、小松勇三）

昭和38年2月13日 北海タイムス  
**竹組（B級）優勝 松組（A級）優勝 全道かるた大会**

【大成】9、10の両日岩見沢市で開かれた第4回全道下の句かるた大会で、旭川市内から出場した旭川かるたクラブ5チームのうちA級は”松組”が準優勝、B級は”竹組”が優勝した。A級準優勝のメンバーは河合秀昭、藤森辰男、高橋諒さんら3人。B級優勝のメンバーは菅原勝、高野憲一、宮野勝さんら3人、またB級では山口幸夫、砂田宏、茶畠金市さんら”つばさ組”が3位に入賞、全道から参加した計51チームの面々をアッといわせた。B級で優勝した菅原勝さん=市内五ノ十四=印判店は今後とも腕をみがき来年はA、B両級を制はしたいと話していた。

昭和39年1月6日 北海道新聞  
**かけ声も元気に 士別で子供かるた大会**

【士別】市内八公区の子供カルタ大会が4日午後1時から士別署武道場で開かれた。参加したのは公区内の小、中生約50人、3人1組で10余組に分かれて行われたが『天の原ふりさけみれば』と句を読む役員のおじさんの声に応じて『ハイッ』とはちきれんばかりの元気な声が道場内にあふれ、新春らしい明るい空気に包まれていた。小、中各組の成績は次の通り

▽中学 ①足利、横山、石立 ②古川、山田、上田 ③石川、古川、篠原

▽小学 ①山田、古川、藤原 ②樋口(兄)篠原、山崎 ③足利(兄)足利(弟)樋口(弟)

昭和39年1月10日 北海道新聞

**子どもかるた会の成績**

【士別】温根別町『若芽子供会』=岩見武雄会長=のかるた会は5日午後6時から同町教信寺で開かれた。約五十人の子供たちが参加団体、個人に分かれてウデを競ったが、このあと町内のおじさんおかあさん達からたくさんのお菓子や果物をもらい、楽しいひと時をすごした。成績は次のとおり  
▽A組①田中ゆみ子、竹中幸子、末永みや子②安藤孝輝、野村栄作、佐藤武光③佐野智津子、清水美地子、阿部敦子 ▽B組①清水修、清水稔、若林武司 ▽C組①石沢ゆみ子、似内たつ子、末永敬子

昭和39年1月11日 北海道新聞

**親ぼくカルタ大会**

【比布】カルタ連盟は12日午前9時から公民館で親ぼくカルタ大会を開く。会費は100円、一般参加も呼びかけている

昭和39年1月14日 北海道新聞

**汗流して熱戦 子供会対抗カルタ大会**

【稚内】『まだふみをみず天の橋立』と朗々と百人一首の下の句が読み上げられ、ざっと190余人の子どもたちが『ハイ』とつぎつぎとフダをとる。これは11日、稚内小で開かれた市、青少年センター共催子供会対抗カルタ大会の風景。なにしろ32子供会からそれぞれ小学生3人、中学生3人ずつを選出しての対抗試合だけに選手だけでも192人、それに『うちの町内の子供会をぜひ勝たせたい』と応援にかけつけた父兄、友人などで広い講堂もギッシリ、ハチマキをしたり、そろいのハッピを着て真剣な表情でフダをならむ選手たちはヒタイの汗をぬぐい、ぬぐい、声援にこたえようと懸命、時のたつのも忘れ夕方おそらくまで熱戦を続けた。成績は次の通り▽小学生の部 ①日吉一 ②鉄友

③クロバー中央 ▽中学生の部 ①クロバー中央 ②大黒二 ③鉄友

昭和39年1月15日 北海道新聞

**業務隊Aが三連勝 全町かるた大会**

【上富良野】第9回全町新春下の句かるた大会は12日午後1時から自衛隊隊員クラブで開かれ、町内のカルタ爱好者、上富良野自衛隊代表者ら四十人が技を競い合った。余韻を含んだ読み手の声が終わるか終わらないうちにかけ声と同時にサッと手がのび1枚1枚、宙に舞うように札が飛びかい5時間にわたる熱戦がくり広げられたが、自衛隊業務隊Aチームが優勝し町公民館長杯を獲得した。

成績次のとおり ①業務隊A (手塚勇、町田正保、池田志津夫) ②町役場 ③一色販炭

④商協売店組合 ⑤三五武器中隊 ⑥町立病院

昭和39年1月15日 北海道新聞

**九区が優勝 青少年カルタ会**

【名寄】市民会館と青少年室が共催して開いた『名寄市新年青少年カルタ大会が13日市民会館和室で行われ、九区ピヤシリ会代表のチームが初優勝を飾った。このカルタ会は公民館が中心となって昨年秋から一般から和歌を公募。明るくすこやかに成長する名寄の青少年を象徴するものを百首選んでカルタを作ったもの。この大会には市内のピヤシリ会の選抜チームが出場、5人1組となってわ

ざを競ったが選手たちは上の句で下の句の取り札をとるほどのものばかり。青少年の職員の読み声に合わせ元気なゲームを展開した。この日会場にはピヤシリ会青年会のおとうさんやおかあさんが応援にかけつけ熱心に観戦。“しっかりと”“落ち着いてね”などの声援を送り楽しい一日だった。  
成績は次のとおり ①九区ピヤシリ会 ②十六区ピヤシリ会A ③十三区

昭和39年1月18日 北海道新聞

### 新年カルタ会

【妹背牛】光宝寺仏教青年会では19日午前10時同寺で新春カルタ会を開く

昭和39年1月21日 北海道新聞

### おとなも顔負けの熱戦 青少年かるた大会

【天塩】町教委主催の第2回天塩町青少年かるた大会は19日、天塩小学校で開かれ、参加選手はおとなも顔負けの熱戦をくりひろげたが成績次のとおり

▽小学生の部 ①園田宏幸、矢島和幸、浜野喜美男組 ②斎藤敏治、山本順昭、桑田正行組③本山登川端道幸、中元英樹組 ▽中学生の部 ①青空(園田、矢島、斎藤) ②昇龍(竹谷、竹谷、高田)  
③大龍拳(広瀬、佐藤、相原)

昭和39年2月3日 北海タイムス

### 旭川の2チームもA級入賞 小樽道南下の句かるた大会

北海タイムス社と小樽かるた協会主催の小樽道南下の句かるた大会は1日午後7時から小樽住之江会館で夜を徹して熱戦を繰り広げ2日午前8時過ぎ終了。札幌金が優勝、タイムス杯を獲得したが、旭川の2チームがA級で2、3位に入賞した

▽A級 ①札幌金(山本満、高橋彰次、野瀬辰巳) ②旭川赤翼翼(山口幸夫、砂田寛、宮野勝)  
③旭川赤翼(広瀬健次、上居力、菅原勝)

昭和39年2月4日 北海道新聞

### 天龍松組が優勝 雄信内かるた大会

【天塩】雄信内かるた愛好会主催の雄信内地区かるた大会は1日から2日にかけて雄信内青年研修所で行われた。大会には地元のほか天塩町市街地、幌延町などからも参加し10チームが熱戦をくりひろげた、成績次の通り ①天塩松組=松崎、園田、早川 ②つばめ(雄信内) ③天塩竹組(天塩町)  
④幌延(幌延町) ⑤嵐(雄信内)

昭和39年2月11日 北海道新聞

### 多寄Bが優勝 士別公区対抗カルタ

【士別】士別カルタクラブ、士別商工会議所、中央公民館主催の公区対抗カルタ大会は9日正午から市公会堂に15チーム45人の選手が参加して開かれた。このカルタ大会は市制施行前までは旧士別町町内対抗大会として毎年開かれていたが、新しく公区制が実施されてから中断、ことしから初めての試みとして公区対抗大会を催したもの。この日は1チーム3人からなる15チームがハイツ、トッタオテツキと午後9時まで熱戦を展開。結局多寄Bチームが優勝した。上位入賞チーム次のとおり

①多寄B ②五公区B ③五公区A ④一公区 ⑤十二公区 ⑥十一公区

昭和39年2月11日 北海道新聞

### 郵便局Aが一位 全町カルタ大会

【美瑛】美瑛町商工青年会(大場会長)主催の全町親ぼく下の句カルタ大会が9日午後1時から町立体育館屋内競技場で行われた。参加したのは町内職場など10チーム。それぞれに応援も繰り出しての熱戦の末、美瑛郵便局Aチームが清水建設チームを決勝で破り、道新杯を獲得した。成績次の通り  
▽1位美瑛郵便局A(松山、寒藤、小野寺組) 2位清水建設(宮崎、青島、越智組) 3位郵便局Bチーム

昭和39年2月14日 北海道新聞

### 職域カルタ大会

【当麻】町商工会は勤労青少年の職域親睦を兼て16日午前10時から町内娯楽館でカルタ大会を開く

昭和40年1月5日 北海道新聞

### あのまちこのまち

美深 ☆ひまわり会親ぼくカルタ大会の開催要領=次のとおり決まった。▽とき 1月12日午前10時  
▽会場 美深公民館 ▽チーム編成 小学生、中学生とし中学生チームには高校生一人の参加を認める。1チームは3人 ▽試合方法 トーナメント ▽申込み1月11日各支部長を通じ美深公民館あて。

昭和40年1月5日 北海道新聞  
**海洋少年団はカルタ大会**

【留萌】”海洋の次代をになう” 海洋少年団では、午前9時から市消防署の講堂を借りて、カルタ大会を楽しんだ。鶴羽団長を中心に、36人の少年たちが、4組に分かれてリーグ戦を開催、みかんとジュースの賞品をもらって新年を祝った。

昭和40年1月6日 北海道新聞  
**三面鏡**

- 中央青年団体協議会の新年かるた大会が4日午後2時から中央公民館和室でにぎやかに開かれた
- 昨年の冷害で出かけぎに行く青年がふえ、集まりが心配されたが市街地、近郊の農村から30人の青年男女が参加。中士別、西士別、南町、南士別、川西、武徳の6つの単位青年団の間ににぎやかなかかるた合戦 ○下の句取りながらハイ、ハイと勢いよく、札をはじき、お正月のひとときを楽しく過ごした成績次の通り ①西士別C ②下士別 ③中士別 ④西士別A ⑤川西A ⑥南士別 【士別】

昭和40年1月15日 北海道新聞

**第三ひまわり会三連勝（小学生の部）カルタ大会**

【美深】町青小協、カルタクラブ主催の町内ひまわり会対抗カルタ（下の句）大会は、12日公民館で開かれた。各ひまわり会から選抜された小、中学生20チームが参加、手なれた競技を繰広げ会場は熱気でいっぱい。小学生チームでは第3ひまわり会が3年連続、中、高では第一ひまわり会が昨年に引き続き優勝した。成績次の通り ▽中、高生チーム ①第一ひまわり会（矢幡、高橋、広田）②同C ③第三ひまわり会 ④第六ひまわり会 ▽小学生チーム ①第三ひまわり会（大橋、島田、山口）②第五ひまわり会 ③第四ひまわり会 ④第一ひまわり会

昭和40年1月15日 北海道新聞

**あのまちこのまち**

（下川）子どもカルタ大会＝町BBSは次のとおり町内公区対抗で開く、参加対象は町内小、中学生。17日午後1時、役場大會議室

昭和40年1月17日 北海道新聞

**九区が2連勝 青少年カルタ大会**

【名寄】カルタを通じてお互いの協力と親交を深めようと市青少年室主催の第2回名寄市青少年カルタ大会が成人の日の15日午前10時から市青少年室で開かれた。大会には公区やピヤシリ子供会ごとに15チーム75人のよい子たちが参加、5人1組で主将15枚副将、二・一将各10枚三将5枚の持ち札で百人一首と同じように木札、下の句の青少年カルタを取り合った。どのチームも大会に備えて正月中ずっと練習しただけあって試合はなかなかの激戦で取ったり取られたりにぎやかな歓声があがつた結果チームワークのよい九区チームが決勝で十六区Aチームを下し昨年に続いて連続優勝した。

順位は次の通り①九区 ②十六区A ③五区 ④高見区

1940年1月19日 北海道新聞

**豆選手大張り切り 稚内 子供会でかるた大会**

【稚内】市青少年センター主催の第4回子供会対抗かるた大会は、17日午前9時から稚内北小体育館で開かれた。新春を飾る恒例のこの大会もこととして4回目。市内33の子供会から小学生26、中学生27の合計53チームが出場。200人近く豆選手が子供会代表として参加、小学生では鉄友が、中学生では緑友子供会が優勝した。成績次のとおり▽小学生の部①鉄友②大黒三③むつみ④うしお⑤クロバー中央 ▽中学生の部 ①緑友 ②北三 ③クロバー中央 ④大黒三 ⑤鉄友

**天塩では下の句大会**

【天塩】町かるた保存会主催の町内職域対抗下の句かるた大会が15日から16日にかけて青年研修所で行われた。シーズンはじめての大会とあってウデにおぼえの職場の代表約20チームが参加して熱戦をくりひろげ、床をたたく音とかけ声が夜を徹してひびいていた。成績次のとおり

▽Aの部 ①石山組（柏谷、津田、高橋）②天塩印刷（丑田、宗方、柳井）③郵政（田牧、佐藤、谷角）  
▽Bの部 ①武田組（木田、武田、久保田）②辰巳（早川、松崎、落合）

昭和41年1月21日 北海道新聞

【下川】町内公区対抗カルタ大会＝下川BBS会主催でこのほど青年研修所大ホールに13チームが参加して行われ、新町Bチームが優勝した。成績次の通り

①新町B（桑野路子、菅原真知子、菅原千恵子）②新町A ③幸町C ④共栄町A